

平成29年12月

事業主 様

厚生労働省人材開発統括官付人材開発政策担当参事官室
PwC コンサルティング合同会社

IT ユーザー企業におけるIT 利活用に関する調査

本調査は、厚生労働省の委託により PwC コンサルティング合同会社が実施するものです。企業活動においてますます情報技術（以下「IT」という）の活用場面が拡がりを見せる中、IT ユーザー企業（IT を活用して事業を行う企業）で働く方が身につけるべき IT に関する基礎的な知識・技術・能力等について、企業の声を収集することを目的としています。本調査については、経営者、もしくは事業上の IT 活用や、IT に係る従業員の育成を管掌されている管理職相当の方にご回答していただくことを想定しております。

つきましては、業務ご多忙の折誠に恐れ入りますが、本事業の趣旨をご理解いただき、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。ご回答につきましては、**平成29年12月28日（木）まで**に、お願い致します。

なお、商工会議所会員企業におかれましては、本調査結果(概要)を、日本商工会議所及び各商工会議所を経由してフィードバックさせていただきます。

このため、末尾の個人情報は、本件アンケートに関するお問い合わせ及びフィードバックのみに利用します。

【問合せ先】

PwC コンサルティング合同会社内

「基礎的ITリテラシーの習得カリキュラムに関する調査研究事業」事務局

担当：林・大橋・恩田・森本・中川

〒100-6921 東京都千代田区丸の内2-6-1 丸の内パークビルディング 21 階

Tel: 03-6212-7477 (月～金曜日、10時-17時) Fax: 03-6250-1201

e-mail: JP_Cons_it.literacy@pwc.com

※ 記入事項については、統計以外の目的に用いることはありませんので、ありのままをご記入ください。

※ 調査票の内容などにご不明の点がある場合は、上記問合せ先までご連絡ください。

ご回答はインターネットから受け付けておりますので、下記 URL から回答画面にアクセスして下さい

<https://goo.gl/forms/vyO9BYbuBjOfytkE3>

(QR コードからもアクセスいただけます。)



回答にかかる時間は10～15分です。

I. 貴社の概要についてお伺いします。

問1. 創業年（西暦で、数値を記入）

西暦 年

問2. 社員数についてお答えください。（数値を記入）

人

問3. 貴社の業種をお答えください。（○は一つ）

- | | |
|------------------|---------------------------------|
| 1. 建設業 | 13. 学術研究 |
| 2. 製造業 | 14. 専門・技術サービス業 |
| 3. 電気・ガス・熱供給・水道業 | 15. 宿泊業 |
| 4. 情報通信業 | 16. 飲食サービス業 |
| 5. 運輸業 | 17. 生活関連サービス業 |
| 6. 郵便業 | 18. 娯楽業 ※1 |
| 7. 卸売業 | 19. 教育 |
| 8. 小売業 | 20. 学習支援業 |
| 9. 金融業 | 21. 医療 |
| 10. 保険業 | 22. 福祉 |
| 11. 不動産業 | 23. 複合サービス事業及びサービス業 ※2 |
| 12. 物品賃貸業 | 24. その他（ <input type="text"/> ） |

※1 その他の生活関連サービス業のうち家事サービス業を除く。

※2 ほかに分類されないもの。外国公務を除く。

問4. 貴社の事業において、情報システムの構築等を行うシステムエンジニアなどの社内のIT技術者以外で、最もITを活用する職種（以下「主要職種」という。）またはIT活用の重要度の高い職種をお答えください。（○は一つ）この2つの観点に基づき該当するものがない、もしくは、複数該当する場合は、人数が多い職種をお選びください。

- | | |
|---------------------------------|---------------------------------|
| 1. 専門・技術職（医師・看護師、コンサルタント、技術者など） | 8. 生産工程職（製造・加工、検査、整備・修理など） |
| 2. 事務職 | 9. 建設・採掘職（建設・電気工事・土木・採掘従事者など） |
| 3. 営業職 | 10. 運搬職（配達員、荷役・倉庫作業従事者など） |
| 4. 販売職（販売店員等） | 11. 労務職（清掃員、包装従事者等） |
| 5. サービス職（家事サービス、介護職員、接客など） | 12. その他（ <input type="text"/> ） |
| 6. 保安職（警備員等） | |
| 7. 輸送・機械運転職（運転手、電車運転士、航海士など） | |

Ⅱ. IT の活用状況についてお伺いします。

【以下の設問は、問4でお答え頂いた「主要職種」の社員についてお聞きします。】

問5. 「主要職種」の管理職を除く一般社員について、以下の設問にお答えください。

※ IT 活用段階として、以下の5段階を設定しました。

活用段階0 使用なし (使用場がない)	活用段階1 基本操作 (基本操作ができる)	活用段階2 応用操作 (ある程度の応用操作ができる)	活用段階3 高度活用 (高度に使いこなせる)	活用段階4 価値創造 (新たな価値を生み出せる)
---------------------------	-----------------------------	----------------------------------	------------------------------	--------------------------------

- ① 「主要職種」の管理職を除く一般社員の業務におけるIT活用の現状を示すものとして、「IT活用段階の例」を参考に、選択肢の中から、最も近いものをお選びください。(〇は一つ)
- ② 「主要職種」の管理職を除く一般社員に2~3年以内に到達して欲しいIT活用の姿として、同様に、選択肢の中から、最も近いものをお選びください。(〇は一つ)

ア.表計算ツール(Excel等)の活用段階

① 現状	0	1	2	3	4
② 到達して欲しい姿	0	1	2	3	4
活用段階	使用なし (使用場がない)	基本操作 (基本操作ができる)	応用操作 (ある程度の応用操作ができる)	高度活用 (高度に使いこなせる)	価値創造 (新たな価値を生み出せる)
活用段階の例	データを紙で保管している 計算を電卓等で行っている	指導指示の下、定められた入力欄に対し、業務上の各種データを入力できる(日常定型業務等) ※マイクロソフトオフィススペシャリスト(一般)レベル	関数やグラフを用いてデータを集計・可視化し、その結果の示す情報を自身で分析・考察できる ※マイクロソフトオフィスエキスパート(上級)レベル	データの分析・考察結果から、自分の身の回りの業務上の課題を発見し、その解決策を示す等の改善提案ができる	データの分析・考察結果から、改善提案にとどまらず、事業の売上や利益の向上、新たな事業・施策の創出に繋がる案を上申する等、事業全体や経営の意思決定に役立つデータ活用ができる

イ. 文書・資料作成ツール（PowerPoint、Word等）の活用段階

① 現状	0	1	2	3	4
② 到達して 欲しい姿	0	1	2	3	4
活用段階	使用なし (使用場 面がない)	基本操作 (基本操作がで きる)	応用操作 (ある程度の応 用操作ができ る)	高度活用 (高度に使いこ なせる)	価値創造 (新たな価値を 生み出せる)
活用段階の例	手書きで 資料を作 成してい る	指導指示の下、 既存の雛型等を 参照しながら報 告書や提案書等 を作成すること ができる(日常 定型業務等) ※マイクロソフ トオフィスス ペシャルスト (一般)レベル	要求された文 書・資料の使用 目的を理解した 上で、他者が理 解しやすいよう グラフやデザイ ン等を使用した 資料を自身で作 成できる ※マイクロソフ トオフィスエ キスペート(上 級)レベル	自分の身の回り の業務上の課題 や、その解決策 を伝える資料を 作成し、関係者 との議論に活用 することができる	改善提案にとど まらず、事業の 売上や利益の向 上、新たな事 業・施策の創出 に繋がる案を上 申する等、事業 全体や経営の意 思決定に役立つ 資料を作成する ことができる

ウ. コミュニケーションツール（電子メール、ウェブサイト、SNSサイト等）の活用段階

① 現状	0	1	2	3	4
② 到達して 欲しい姿	0	1	2	3	4
活用段階	使用なし (使用場 面がない)	基本操作 (基本操作がで きる)	応用操作 (ある程度の応 用操作ができ る)	高度活用 (高度に使いこ なせる)	価値創造 (新たな価値を 生み出せる)
活用段階の例	情報発信 は電話、 FAXや 紙媒体 (パンフ レット、 チラシ 等)を使 用してい る	既存コミュニケ ーションツール をマニュアルを 見ながら操作で き、社内外に情 報発信ができる	様々なコミュニ ケーションツ ールの特徴を理解 しており、目的 に合わせて適切 な手法を選択 し、社内外に情 報発信ができる	様々なコミュニ ケーションツ ールを目的に合わ せて適切に組み 合わせ、解析ツ ール等を活用 し、効果検証を 行い、自分の身 の回りの業務上 の課題の解決に 活用することが できる	様々なコミュニ ケーションツ ールを目的に合わ せて適切に組み 合わせ、解析ツ ール等を活用 し、効果検証を 行い、改善提案 にとどまらず、 事業の売上や利 益の向上、新た な事業・施策の 創出に繋がる案 を上申すること ができる

工. 業務システム（顧客管理システム、販売管理システム、生産・製造管理システム、教育・訓練システム（e-ラーニング）等）の活用段階

① 現状	0	1	2	3	4
② 到達して 欲しい姿	0	1	2	3	4
活用段階	使用なし （使用場 面がない）	基本操作 （基本操作がで きる）	応用操作 （ある程度の応 用操作ができ る）	高度活用 （高度に使いこ なせる）	価値創造 （新たな価値を 生み出せる）
活用段階の例	手書きで 帳簿を管 理してい る	定められたマニ ュアルに沿っ て、指導指示の 下、各種システ ム上で情報を入 力することがで きる（日常定型 業務等）	自身で条件を設 定し、システム から必要なデー タを抽出・加工 することができる	自分の身の回り の業務上の課題 や、その解決策 を検討するため に、システムよ り抽出・加工し たデータを分 析・考察し、関 係者との議論に 活用することが できる。 また、自分の身 の回りの業務に おいてシステム の導入が適切な 場面や改修内容 を検討すること ができる。	システムより抽 出し分析・考察 したデータをも とに、改善提案 にとどまらず、 事業の売上や利 益の向上、新た な事業・施策の 創出に繋がる案 を上申する等、 事業全体や経営 の意思決定に役 立つ活用ができ る。 また、自社の業 務においてシス テムの導入が適 切な場面や改修 内容を検討する ことができる。

Ⅲ. 新たな IT に係る活用状況についてお伺いします。

【以下の設問は、問4でお答え頂いた「主要職種」の社員についてお聞きします。】

問6. 近年、IoT や AI といった新たな IT が注目されています。

- ① これらの新たな IT について、名称及び内容をご存知ですか。（○は一つ）
- ② これらの新たな IT について、現在の活用状況・意向をお答えください。（○は一つ）

	①認知 ※○は一つ		②活用状況・意向 ※○は一つ			
	1. 知らない	2. 知っている	1. 自社の業務における活用イメージが湧かない	2. 検討した結果、活用を考えていない	3. 活用を検討しているが、まだ活用に至っていない	4. 実際に活用している
オ.IoT	1	2	1	2	3	4
カ.ビッグデータ	1	2	1	2	3	4
キ.AI	1	2	1	2	3	4
ク.ロボット	1	2	1	2	3	4
ケ.クラウド	1	2	1	2	3	4

【ご参考】

- **IoT**：Internet of Things の略。あらゆるモノがインターネットにつながることで、モノから収集した情報やその分析結果をモノに返し、制御・作用に繋げる仕組みや概念のこと。
 (活用例) ・ 製造機械に取り付けられたセンサーで製造機械の稼働状況（温度や圧量等）を測定し、測定した情報から故障の発生可能性を分析し、故障する可能性がある場合、製造機器を自動で停止する。物流の状況をリアルタイムに管理・追跡する。
 ・ スマートメーターを取り付け、電気やガスの使用量を測定し、使用量が過剰になった際、自動で使用量を適切な量に下げる
 ・ 時計型やネックレス型のセンサーで生体情報（心拍等）を収集し、分析し、健康状態を利用者にお知らせする。 等
- **ビッグデータ**：市販されているデータベース管理ツールや従来のデータ処理アプリケーションで処理することが困難なほど、多種・多量なデータ集合の集積物。これらのデータを分析し、分析結果を活用し社会課題の解決、既存ビジネスの改善・高付加価値化や新たなビジネスの創出が行われている。
 (活用例) ・ 過去 10 年分の顧客 2 万人の属性情報及び購入履歴を分析し、顧客の趣味趣向に関する傾向を把握し、各顧客の好みに合った商品の提案を行う。
 ・ 過去 2 年分の生活習慣病になった患者 100 人の健康診断情報、遺伝子情報や患者が記録した生活記録情報を分析し、どのような生活習慣をもった患者が生活習慣病になりやすい傾向なのか把握する。
 ・ 製造機械の圧力や温度等の稼働データを過去 5 年分分析し、圧力や温度が何度になると故障しやすいのか把握する。 等

- **AI**：Artificial Intelligence の略。学習、推論、判断し、人間の知能のはたらきを人工的に実現するための技術（人工知能）。
 （活用例）
 - ・コールセンター等でこれまでに受けた利用者からの問い合わせ内容を学習させ、人間にかわり利用者からの質問に回答する。
 - ・工場等で機器の稼働データや障害発生時のデータを基に故障前に自動的に故障を予測し、適切な処置を指示する。
 - ・RPA（Robotic Process Automation）等、業務の処理手順を学ばせ、その業務を自動で処理する。等
- **ロボット**：何らかの作業を自律的に行う装置や機械。これまで人間が行ってきた労働の補助・代替などを可能とするもの。
 （活用例）
 - ・介護ロボットや電動スーツ等、重い物や人を上下や別の地点に移動を補助するロボット
 - ・産業用ロボット等、工場の自動化を可能とし、生産性や効率性を向上させるロボット
 - ・ソフトバンクロボティクスの Pepper やソニーの AIBO 等、人間の言葉を理解し、問いかけに答えることができるロボット 等
- **クラウド**：インターネット上にあるサーバ群（クラウド（雲））にデータを保存する使い方。利用者は従来のように自分の端末（PC 等）でデータを保存・加工する必要がなく、インターネットがつながる環境であれば端末に制限されず、どの端末からでもデータを閲覧、編集、アップロードすることができる仕組みのこと。
 （活用例）
 - ・電子メール、ウェブサイト、SNS サイト等のクラウドのコミュニケーションツールを用いることで、営業活動による顧客先や自宅等、会社の外からでも PC やスマートフォン等から情報を共有。
 - ・顧客管理システム、販売管理システム、生産・製造管理システム、教育・訓練システム（e-ラーニング）等の業務システムについて、初期投資をかけて導入せず（自社にサーバ等の設備を構築せず）に、月額費用を支払いクラウド上でサービスを利用。

オ. IoT の活用段階

① 現状	0	1	2	3	4
② 到達して 欲しい姿	0	1	2	3	4
IT 活用段階	使用なし (使用場 面がない)	認知 (技術等の概要 を知っている)	操作可能 (機器等の操作 ができる)	高度活用 (高度に使いこ なせる)	価値創造 (新たな価値を 生み出せる)
IT 活用段階の 例	機器同士 がインタ ーネット を介して 繋がって おらず、 個々の機 器が個別 に制御・ 作用して いる	IoT とは何かや 具体的な活用事 例・サービス・ 商品名を知っ ており、IoT を活 用する具体的な 場面やメリッ トを理解している	定められたマニ ュアルに沿っ て、指導指示の 下、IoT 機器の 操作ができる また、機器から 収集したデータ の異常等を発見 し、関係者に報 告・相談するこ とができる	IoT 機器から収 集したデータを 分析・考察し、 自分の身の回り の業務の課題解 決策や生産性向 上策を示す等の 改善提案ができ る また、自分の身 の回りの業務に おいて IoT の導 入・活用が適切 な場面を検討す ることができる	IoT 機器から収 集し分析・考察 したデータをも とに、改善提案 にとどまらず、 事業の売上・利 益や生産性向 上、新たな事 業・施策の創出 に繋がる案を上 申する等、事業 全体や経営の意 思決定に役立つ 活用ができる また、自社の事 業において IoT の導入・活用が 適切な場面を検 討することができる

【ご参考】 IoT とは	<ul style="list-style-type: none"> ● 概要： Internet of Things の略。あらゆるモノがインターネットにつながることで、モノから収集した情報やその分析結果をモノに返し、制御・作用させる仕組みや概念のこと。 ● 活用例： <ul style="list-style-type: none"> ・ 製造機械に取り付けられたセンサーで製造機械の稼働状況（温度や圧量等）を測定し、測定した情報から故障の発生可能性を分析し、故障する可能性がある場合、製造機器を自動で停止する。物流の状況をリアルタイムに管理・追跡する。 ・ スマートメーターを取り付け、電気やガスの使用量を測定し、使用量が過剰になった際、自動で使用量を適切な量に下げる。 ・ 時計型やネックレス型のセンサーで生体情報（心拍等）を収集し、分析し、健康状態を利用者にお知らせする。 等
-----------------	--

カ. ビッグデータの活用段階

① 現状	0	1	2	3	4
② 到達して 欲しい姿	0	1	2	3	4
IT 活用段階	使用なし (使用場 面がない)	認知 (技術等の概要 を知っている)	操作可能 (機器等の操作 ができる)	高度活用 (高度に使いこ なせる)	価値創造 (新たな価値を 生み出せる)
IT 活用段階の 例	エクセル 等で作業 できる量 のデータ を活用し ている	ビッグデータと は何かや具体的 な活用事例・サ ービス・関連商 品名を知ってお り、ビッグデー タを活用する具 体的な場面やメ リットを理解し ている	指導指示の下、 BI ツール (※)等の解析 ツールを使用し て膨大なデータ を集計すること ができる	集計データを自 身で分析・考察 し、自分の身の 回りの業務上の 課題解決や効 率化策を示す等 の改善提案がで きる また、自分の身 の回りの業務に おいてビッグデ ータの活用が適 切な場面を検討 することができる	分析・考察した データをもと に、改善提案に とどまらず、事 業の売上や利益 の向上、新たな 事業・施策の創 出に繋がる案を 上申する等、事 業全体や経営の 意思決定に役立 つ活用ができる また、自社の事 業においてビッ クデータの活用 が適切な場面を 検討することが できる

【ご参考】 ビッグデータ とは	<ul style="list-style-type: none"> ● 概要： 市販されているデータベース管理ツールや従来のデータ処理アプリケーションで処理することが困難なほど、多種・多量なデータ集合の集積物。これらのデータを分析し、分析結果を活用し社会課題の解決、既存ビジネスの改善・高付加価値化や新たなビジネスの創出が行われている。 ● 活用例： <ul style="list-style-type: none"> ・ 過去 10 年分の顧客 2 万人の属性情報及び購入履歴を分析し、顧客の趣味趣向に関する傾向を把握し、各顧客の好みに合った商品の提案を行う。 ・ 過去 2 年分の生活習慣病になった患者 100 人の健康診断情報、遺伝子情報や患者が記録した生活記録情報を分析し、どのような生活習慣をもった患者が生活習慣病になりやすい傾向なのか把握する。 ・ 製造機械の圧力や温度等の稼働データを過去 5 年分分析し、圧力や温度が何度になると故障しやすいのか把握する。等 <p>(※) BI ツールとは、ビジネスインテリジェンス・ツールの略。大量の蓄積データを収集して分析するためのツールのことを指す。</p>
-----------------------	--

キ. AI の活用段階

① 現状	0	1	2	3	4
② 到達して 欲しい姿	0	1	2	3	4
IT 活用段階	使用なし (使用場 面がない)	認知 (技術等の概要 を知っている)	操作可能 (機器等の操作 ができる)	高度活用 (高度に使いこ なせる)	価値創造 (新たな価値を 生み出せる)
IT 活用段階の 例	従業員 (人) に より、業 務上の作 業や判断 を行って いる	AI とは何かや 具体的な活用事 例・サービス・ 商品名を知っ ており、AI を活 用する具体的な 場面やメリット を理解している	定められたマニ ュアルに沿っ て、指導指示の 下、AI が搭載 された機器の操 作ができる また、機器から 収集したデータ の異常等を発見 し、関係者に報 告・相談するこ とができる	AI が搭載され た機器から得た データを分析・ 考察し、自分の 身の回りの業務 上の課題解決策 や効率化策を示 す等の改善提案 ができる また、自分の身 の回りの業務に おいて AI の導 入・活用が適切 な場面を検討す ることができる	AI が搭載され た機器より得て 分析・考察した データをもと に、改善提案に とどまらず、事 業の売上・利益 や生産性の向 上、新たな事 業・施策の創出 に繋がる案を上 申する等、事業 全体や経営の意 思決定に役立つ 活用ができる また、自社の事 業において AI の導入・活用が 適切な場面を検 討することができる

【ご参考】 AI とは	<ul style="list-style-type: none"> ● 概要： Artificial Intelligence の略。学習、推論、判断し、人間の知能のはたらきを人工的に実現するための技術（人工知能）。IBM の Watson や Google の AlphaGo(囲碁 AI)が挙げられる。 ● 活用例： ・コールセンター等でこれまでに受けた利用者からの問い合わせ内容を学習させ、人間に代わり利用者からの質問に回答する。 ・工場等で機器の稼働データや障害発生時のデータを基に故障前に自動的に故障を予測し、適切な処置を指示する。 ・RPA (Robotic Process Automation) 等、業務の処理手順を学ばせ、その業務を自動で処理する。 等
----------------	--

ク. ロボットの活用段階

① 現状	0	1	2	3	4
② 到達して 欲しい姿	0	1	2	3	4
IT 活用段階	使用なし (使用場 面がない)	認知 (技術等の概要 を知っている)	操作可能 (機器等の操作 ができる)	高度活用 (高度に使いこ なせる)	価値創造 (新たな価値を 生み出せる)
IT 活用段階の 例	従業員 (人) に より業務 上の作業 を行っている	ロボットとは何 かや具体的な活 用事例・サービ ス・商品名を知 っており、ロボ ットを活用する 具体的な場面や メリットを理解 している	定められたマニ キュアルに沿っ て、指導指示の 下、ロボット (自律的に作業 する機器) の操 作ができる また、機器その ものや、機器か ら収集したデー タの異常等を発 見し、関係者に 報告・相談する ことができる	自分の身の回り の業務上におけ る、ロボット (自律的に作業 する機器) の働 きを分析・考察 し、より良い動 作案を示す等の 改善提案ができ る また、自分の身 の回りの業務に おいてロボット の導入・活用が 適切な場面を検 討することができる	ロボットの動作 等の改善提案に とどまらず、事 業の売上や利益 の向上、新たな 事業・施策の創 出に繋がる案を 上申する等、事 業全体や経営の 意思決定に役立 つ活用ができる また、自社の事 業においてロボ ットの導入・活 用が適切な場面 を検討すること ができる

<p>【ご参考】 ロボットとは</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 概要： 何らかの作業を自律的に行う装置や機械。これまで人間が行ってきた労働の補助・代替などを可能とするもの。 ● 活用例： <ul style="list-style-type: none"> ・介護ロボットや電動スーツ等、重い物や人を上下や別の地点に移動を補助するロボット ・産業用ロボット等、工場の自動化を可能とし、生産性や効率性を向上させるロボット ・ソフトバンクロボティクスの Pepper やソニーの AIBO 等、人間の言葉を理解し、問いかけに答えることができるロボット 等
-------------------------	---

ケ. クラウドの活用段階

① 現状	0	1	2	3	4
② 到達して 欲しい姿	0	1	2	3	4
IT 活用段階	使用なし (使用場 面がない)	認知 (技術等の概要 を知っている)	操作可能 (機器等の操作 ができる)	高度活用 (高度に使いこ なせる)	価値創造 (新たな価値を 生み出せる)
IT 活用段階の 例	PC や自 社のサー バの中だ けでデー タを保存 している	クラウドとは何 かや具体的な活 用事例を知っ ており、クラウド を活用する具体 的な場面やメリ ットを理解して いる	定められたマニ ュアルに沿っ て、指導指示の 下、クラウド上 で情報の編集や 格納、共有等の 操作ができる	自分の身の回り の業務におい て、クラウドを 活用した課題解 決策や効率化策 を示す等の改善 提案ができる また、自分の身 の回りの業務に おいてクラウド の導入・活用が 適切な場面を検 討することができる	クラウドを活用 した改善提案に とどまらず、事 業の売上や利益 の向上、新たな 事業・施策の創 出に繋がる案を 上申する等、事 業全体や経営の 意思決定に役立 つ活用ができる また、自社の事 業においてクラ ウドの導入・活 用が適切な場面 を検討すること ができる

【ご参考】 クラウドとは	<ul style="list-style-type: none"> ● 概要： インターネット上にあるサーバ群（クラウド（雲））にデータを保存する使い方。利用者は従来のように自分の端末（PC 等）でデータを保存・加工する必要がなく、インターネットがつながる環境であれば端末に制限されず、どの端末からでもデータを閲覧、編集、アップロードすることができる仕組みのこと。 ● 活用例： <ul style="list-style-type: none"> ・電子メール、ウェブサイト、SNS サイト等のクラウドのコミュニケーションツールを用いることで、営業活動による顧客先や自宅等、会社の外からでも PC やスマートフォン等から情報を共有。 ・顧客管理システム、販売管理システム、生産・製造管理システム、教育・訓練システム（e-ラーニング）等の業務システムについて、初期投資をかけて導入せず（自社にサーバ等の設備を構築せず）に、月額費用を支払いクラウド上でサービスを利用。 等
-----------------	--

IV. 人材の確保・育成の実施状況についてお伺いします。

問9. 事業遂行上必要なIT活用レベルが既存の従業員にて不足している場合の適切な人材の確保方法について、貴社のお取組に近いものをお選びください。(〇は三つまで)

外部調達による確保	内部調達による確保
1. ハローワークを活用した外部人材の採用	7. 従業員の育成(職場外研修(以下「OFF-JT」という。))
2. 民間人材サービスを活用した外部人材の採用・派遣	8. 従業員の育成(職場内研修(以下「OJT」という。))
3. 知人の紹介等、縁故採用	9. 適切な人材の配置転換
4. 専門家派遣の活用	10. その他()
5. 外部の適切な人材への外注	
6. その他()	

【問9で「7. 従業員の育成(OFF-JT)」を選択した方にお伺いします】

※それ以外の方は問11へ。

問10. 貴社の従業員育成の実施状況についてお伺いします。

① 貴社では現在どのようなレベルの従業員育成(OFF-JT)を実施していますか。貴社のお取組に近いものをお選びください。(〇はいくつでも)

	〇・実施していない	育成(OFF-JT)内容のレベル ※〇はいくつでも			
		1. 基本操作レベル	2. ある程度応用できるレベル	3. 高度な使いこなしレベル	4. 新たな価値の創出レベル
	実施していない	部分的に指導を受けながら活用できる程度の基本操作レベル	検討に繋がる情報の導き出せる程度の応用操作レベル	分析・考察や調整・検討に繋がる情報を導き出せるレベル	活用を通じて、自分の身の回りの業務の改善提案等に繋げることが出来るレベル
ア. 表計算ツール(Excel等)	〇	1	2	3	4
イ. 文書・資料作成ツール(PowerPoint、Word等)	〇	1	2	3	4
ウ. コミュニケーションツール(電子メール、ウェブサイト、SNSサイト等)	〇	1	2	3	4
エ. 業務システム(顧客管理システム、販売管理システム、生産・製造管理システム、教育・訓練システム(e-ラーニング)等)	〇	1	2	3	4

	0. 実施していない	育成（OFF-JT）内容のレベル ※0はいくつでも			
		1. 概要レベル	2. 操作レベル	3. 高度な使いこな しレベル	4. 新たな価値の創 出しレベル
	実施していない	技術に関する基礎知識や活用事例を学ぶレベル	部分的に指導を受けながら活用できる程度の基本操作レベル	活用を通じて、自分の身の回りの業務の改善提案等に繋げることで活用レベル	活用を通じて、業績向上や経営の意思決定に繋げることができるとレベル
オ.IoT	0	1	2	3	4
カ.ビッグデータ	0	1	2	3	4
キ.AI	0	1	2	3	4
ク.ロボット	0	1	2	3	4
ケ.クラウド	0	1	2	3	4

② 上記実施中の従業員育成（OFF-JT）につき、具体的な実施内容として、研修内容（研修名でも可）及び研修期間（所要日数または時間）をお聞かせください。

<p>研修内容 ※研修名でも可</p> <p>研修期間 ※所要日数または 時間</p>

③ 貴社では現在どのような方法で従業員育成（OFF-JT）を実施していますか。貴社のお取組に近いものをお選びください。（〇はいくつでも）

1. 外部専門家を講師とした社内での集合研修の実施
2. 自社従業員を講師とした社内での集合研修の実施
3. 民間機関の実施する外部研修（民間研修会社等が開催しているもの）への従業員の参加
4. 公共機関の実施する外部研修（自治体や職業能力開発施設等が開催しているもの）への従業員の参加
5. 各種団体の実施する外部研修（業界団体や経済団体が開催しているもの）への従業員の参加
6. 製造・販売元企業の実施する外部研修（IT 機器やソフトウェア等を製造または販売している企業が開催しているもの）への従業員の参加
7. 教材等を配布しての個別学習（e-ラーニング等）
8. 外部研修受講の支援（講座の紹介や費用補助等）
9. その他（)

【問9で「7. 従業員の育成（OFF-JT）」を選択しなかった方にお伺いします】

問11. 現在貴社にて従業員育成（OFF-JT）を実施していない理由は何ですか。貴社のご状況に近いものを、選択肢の中からお選びください。（〇は三つまで）

1. 訓練にかかる時間的な余裕が不足しているため
2. 訓練にかかる予算が不足しているため
3. 講師ができる人材が組織内にいないため
4. 適切な外部講師を知らないため
5. 適切な外部講師がいないため
6. 適切な外部訓練が何かわからないため
7. 適切な外部訓練がないため
8. 訓練関係の担当者がおらず検討ができていないため
9. OJT で充分と考えるため
10. 能力開発は個人が行うべきものであると考えるため
11. 訓練に興味はあるが、事業上の IT 活用状況を鑑みると実施には時期尚早であるとするため
12. 事業上の IT 活用状況や今後の活用状況を鑑みると、実施の必要性を感じないため
13. 訓練しても辞めてしまうため
14. 実施しても効果が分からないため
15. 技術革新や業務変更が頻繁な故、訓練が無駄になるため
16. その他（

問12. 今後、国や都道府県が実施する公共職業訓練の中にIT活用に関する講座が追加された場合、どのレベルの講座を貴社の「主要職種」の管理職を除く一般社員に受講させたいと考えますか。選択肢の中から、最も近いものをお選びください。(〇は一つ)

	〇. 受講させた ものがない	講座のレベル ※〇は一つ			
		1. 基本操作レベル	2. ある程度の 応用操作レベル	3. 高度な使い こなしレベル	4. 新たな価値 の創出レベル
	使用場面がない等の理由により、受講不要	部分的に指導を受けながら活用できる程度の基本操作レベル	分析・考察や調整・検討に繋がる情報を導き出せる程度の応用操作レベル	活用を通して、自分の身の回りの業務の改善提案等に繋げることが出来るレベル	活用を通じて、業績向上や経営の意思決定に繋げることが出来るレベル
ア. 表計算ツール (Excel 等)	〇	1	2	3	4
イ. 文書・資料作成ツール (PowerPoint、Word 等)	〇	1	2	3	4
ウ. コミュニケーションツール (電子メール、ウェブサイト、SNS サイト等)	〇	1	2	3	4
エ. 業務システム (顧客管理システム、販売管理システム、生産・製造管理システム、教育・訓練システム (e-ラーニング) 等)	〇	1	2	3	4

	0. 受講させたいものがない	講座のレベル ※0は一つ			
		1. 概要レベル	2. 操作レベル	3. 高度な使いこなすレベル	4. 新たな価値の創出しレベル
	使用場面がない等の理由により、受講不要	技術に関する基礎知識や活用事例を学ぶレベル	部分的に指導を受けながら活用できる程度の基本操作レベル	ことばじきレベル 活用を通じて、自分の身の回りの業務の改善提案等に繋げること	活用を通じて、業績向上や経営の意思決定に繋げることができるレベル
オ.IoT	0	1	2	3	4
カ.ビッグデータ	0	1	2	3	4
キ.AI	0	1	2	3	4
ク.ロボット	0	1	2	3	4
ケ.クラウド	0	1	2	3	4

問13. 貴社が、中途採用者に最低限有しておいてほしいIT活用レベルはそれぞれどの程度ですか。選択肢の中から、最も近いものをお選びください。(〇は1つ)

	0. 有していない くてよい	IT活用のレベル ※〇は一つ			
		1. 基本操作レベル	2. ある程度の応用操作レベル	3. 高度な使いこなしレベル	4. 新たな価値の創出しレベル
	要 理由により、保有不 使用場面がない等の	部分的に指導を受け ながら活用できる程 度の基本操作レベル	分析・考察や調整・ 検討に繋がる情報を 導き出せる程度の応 用操作レベル	自分の身の回りの業 務の改善提案等に繋 げることができるレ ベル	業績向上や経営の意 思決定に繋げること ができるレベル
ア. 表計算ツール (Excel 等)	0	1	2	3	4
イ. 文書・資料作成ツール (PowerPoint、Word 等)	0	1	2	3	4
ウ. コミュニケーションツール (電子メール、ウェブサイト、SNS サイト等)	0	1	2	3	4
エ. 業務システム (顧客管理システム、販売管理システム、生産・製造管理システム、教育・訓練システム (e-ラーニング) 等)	0	1	2	3	4

	0. 有して いなくて よい	IT 活用のレベル ※0は一つ			
		1. 概要 レベル	2. 操作 レベル	3. 高度な 使いこな しレベル	4. 新たな 価値の創 出レベル
	使用場 面がない 等の理 由により 、保有不 要	技術に 関する基 礎知識 や活用 事例を学 ぶレ ベル	部分的 に指導を 受けな がら活 用でき る程 度の基 本操作 レベ ル	活用を 通じて 、自分 の身の 回りの 業務の 改善提 案等に 繋げる こと ができる レベ ル	活用を 通じて 、業績 向上や 経営の 意思決 定に繋 げること がで きるレ ベル
オ.IoT	0	1	2	3	4
カ.ビッグデータ	0	1	2	3	4
キ.AI	0	1	2	3	4
ク.ロボット	0	1	2	3	4
ケ.クラウド	0	1	2	3	4

本アンケート調査に関連して、お問い合わせ等をさせていただく場合がございます。差し支えない範囲で下欄にご記入をお願いいたします。
 ※ご記入は任意です。

ヒアリング協力可否	本調査の回答内容等に関し詳細をお伺いさせていただきたい場合、事務局からのヒアリングにご協力いただけますか。 可 ・ 否
貴社名	
部署名	
役職名	
ご担当者ご芳名	
Tel	
E-mail	
所在地	〒

※ ご記入いただきました連絡先等は、調査目的（結果のフィードバックを含む。）以外には使用いたしません。皆様の個人情報は、当社の「個人情報保護方針」（当社ホームページ <<https://www.pwc.com/jp/ja/sitemap/privacy/consulting.html>>にて全文ご確認いただけます）に従い適切に取扱います。連絡先等の個人情報に関しては、上記にご同意いただける方のみご記入ください。

～アンケートは以上となります。ご協力ありがとうございました。